

# 平成 29 年度（2017 年度）事業報告

## 本財団で行った研修及び研究

本財団は、精神分析の研修、研究事業を実施することによりわが国の精神保健の向上のため努力し、相当の成果を上げている。本年度もこれらの方針を継続し、下記事業を実施した。医師等に対する精神分析及精神分析療法に関する研修事業として、通年セミナー13件うちワークショップ1件（新規セミナー1件）、単発セミナー8件（新規セミナー3件うち海外の講師によるセミナー2件）、出版・広報事業1件を実施した。各セミナー全体の担当役員として教育研修委員長がこれにあたる。

### I. 研修事業

#### 1. 通年セミナー

##### (1) 小寺精神分析研究セミナー（第23期）

テ ー マ : 「精神分析的臨床の生きる場所」

概 略 : 精神分析的な人間の見方は、どのような場面であれ、臨床のなかのできごとにより的確に考えうる形を与える力をもっています。今の日本でその力はどのように発揮されているでしょう。ここではその力が発揮される場所として、精神医療、開業臨床、子どもの臨床について、それぞれの場所で精神分析的なものの見方や実践がどのように生きているのかを検証しました。

それぞれ三回ずつをあて、最後の回はその場における事例を検討をし、最終回には、日本における精神分析的なものの見方や臨床の生きる場所について、パネルディスカッションを行いました。

対 象 : 精神分析に関心があり、臨床実践を行っており、守秘義務を負っている方。

開催期間 : 平成 29 年(2017 年)5 月～平成 30 年(2018 年)3 月、月 1 回

第 3 土曜日原則、午後 7 時～9 時、全 10 回

開催場所 : TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

参加人数 : 66 名

運営方法 : それぞれのテーマの 1 回目、2 回目は講師にお話しいただき、3 回目はケースの提示と討論を行います。司会は藤山直樹が担当（10 月のみ岡田暁宜）

企画及び担当 : 藤山直樹

日 時	講 師	テ ー マ	討 論 者
5 月 20 日	奥寺 崇	① 外来クリニックでどう精神分析的なものはありうるか	高野 晶
6 月 17 日	東中園 聡	② 入院場面でどう精神分析的なものはありうるか	相田信男
7 月 15 日	③ ケース研究 精神医療におけるケース	症例提示 : 小林要二	権 成 鉉
9 月 16 日	岩倉 拓	① 開業心理臨床場面でどう精神分析的なものはありうるか	中村留貴子
10 月 21 日	藤山直樹	② 個人開業場面でどう精神分析的なものはありうるか	鈴木 龍
11 月 18 日	③ ケース研究 開業のケース	症例提示 : 藤内栄太	福本 修
12 月 16 日	平井正三	① 子どもの臨床でどう精神分析的なものはありうるか (1)	生地 新
1 月 20 日	川畑友二	② 子どもの臨床でどう精神分析的なものはありうるか (2)	脇谷順子
2 月 17 日	③ ケース研究 子どもの臨床のケース	症例提示 : 彦坂道子	木部則雄
3 月 17 日	シンポジウム	中村伸一 ・ 岡野憲一郎 ・ 白波瀬丈一郎	

## (2) 体験グループセミナー (第 23 期)

目的：精神分析、力動的力動的精神療法の方向付けを基本とした、グループダイナミックスの学習、自己理解の深化をワークショップ形式のグループ体験を通して得る機会の提供を目的とする。

対象：精神分析セミナー、精神分析的精神分析的心理臨床セミナーならびにそれに相当するセミナーの受講者、修了者ですでに精神療法の経験をもつ方を優先する。

基本を2年コースと考えているので原則として2年目の参加者を優先。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：平成 29 年(2017 年)5 月～平成 30 年(2018 年)3 月、月 1 回

第 4 金曜日原則、午後 7 時～8 時 30 分、全 10 回

場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：23 名

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

## (3) グループ理論研究セミナー (第 22 期)

目的：精神分析、力動的力動的医学を基礎におく集団精神療法の臨床または指導者の養成を、理論的理論的学習、とりわけ事例をめぐるスーパービジョンを通して達成することを目的とする。

対象：何らかの臨床グループあるいはトレーニング・グループなど、実際グループに参加した経験のある方で、ことに事例提供が可能な方を原則とする。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：平成 29 年(2017 年)5 月～平成 30 年(2018 年)3 月、月 1 回

第 2 土曜日、午後 2 時～5 時 全 10 回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：40 名

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

## (4) 力動的家族療法セミナー (第 15 期)

目的：力動的力動的な家族療法を中心とした家族面接と評価の方法、ジェノグラム書き方、介入技法など。

対象：個人精神療法に関する何らかの研修(セミナーあるいはスーパービジョンなど)を受けているか、受けたことのある方。大学院生も受講可。

講師：中村伸一・渡辺俊之・野末武義・岩井昌也

開催期間：平成 29 年(2017 年)6 月～平成 30 年(2018 年)3 月、月 1 回

2017 年度は原則第 4 土曜日、午後 2 時～5 時 全 10 回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：11 名

企画者：中村伸一

担当委員：中村伸一

## (5) 小寺臨床講読セミナー

### —現代クライン派の系統的理解 (第IV期) : 1. 基本概念と展開—

目的 : 2017年度より新たに、第IV期講読セミナーを開講します。メラニー・クラインは、現代の精神分析の重要な源泉の一つであり、優れた直観と観察に基づいて多くの独創的な見解を展開しました。しかし原著は、十分に背景を知らずに読んでも理解し難いことも事実です。今期は、初めて触れる方にとっても改めて取り組む方にとっても理解を深められるように、クライン自身の論文とともに、時代と人物を伝える解説や現代クライン派の論文を幅広く多く取り上げます。本年は、待望の Margaret & Michael Rustin : Reading Klein (Routledge, 2016) と平行して、クライン自身の著作を読み進めます。

対象 : テキストを読んで毎回参加できる方。年に何回かレジュメ作成・発表を担当。

講師 : 福本 修

開催期間 : 平成 29 年 (2017 年) 4 月以降の第 2 金曜、原則として午後 7 時~10、全 12 回

開催場所 : 小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数 : 21 名

企画者 : 福本 修

担当委員 : 福本 修

## (6) 小寺臨床講読ワークショップ

### —フロイトの系統的理解 (第IV期) 3. : 新たな分析的諸見地 (1920-1939) —

目的 : 本ワークショップは、参加時間の中でフロイト読解を体験して、精神分析の〈現場〉へと赴くことを目指しています。2017年度は、1920年以降の後期のフロイトの展開を取り上げます。集団力動の理解・改訂された欲動論・超自我 - 自我 - エスの内的構造論・トラウマの問題など、現代の精神分析に直結している論文を中心に、そこに含まれている興味深い概念を検討すると同時に、臨場感ある現代論文を参照しました。フロイトの著作は今も基本であり発想の源泉ですが、読み進めるのは、容易ではありません。晩年の著作も、対象関係論や現代の精神分析とはまだ距離があります。グループで読み進めることによって、理解は深まり、初学者の方も経験ある方も、新鮮なフロイトに触れることができるでしょう。

対象 : テキストを読んで毎回参加できる方。臨床経験の多寡は問いません。

講師 : 福本 修

開催期間 : 平成 29 年 (2017 年) 4 月以降の第三金曜、午後 7 時~10 時、全 12 回

開催場所 : 小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数 : 19 名

企画者 : 福本 修

担当委員 : 福本 修

### (7) 精神分析的な心理療法セミナー (第9回)

目的：精神分析的な心理療法の事例検討会です。事例を通して、精神分析的な考え方や臨床のリアリティを共有し、理解と技法を深めていきたいと思えます。

本年度のセミナーは、原則として月一回、年間11回開催の予定ですが、日曜日を利用して一日に2事例を検討する特別セッションもあります。助言者として講師をお招きしますが、参加者が助言を担当することもあります。また、参加者には毎回、順番に司会を担当していただきます。

対象：中堅以上の心理療法家で、十分な臨床経験と研修歴をお持ちの方

講師：中村留貴子、藤山直樹、深津千賀子、妙木浩之、平井正三

開催期間：平成29年(2017年)4月～平成30年(2018年)3月

原則として、第一金曜日、午後7時30分～10時、全10回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム(1/8はSCビル2階会議室)

参加人数：11名

企画者：中村留貴子

担当委員：岡野憲一郎

### (8) 臨床家のための、産業メンタルヘルス実践セミナー (第5回)

目的：産業メンタルヘルスに関わる専門家への、社会の要請はいや増すばかりです。こうした要請に応えるべく、当財団では「臨床家のための、産業メンタルヘルス実践セミナー」として開講しています。このセミナーでは、産業メンタルヘルス領域で働くための実践能力の養成を目的とします。セミナーは精神分析的あるいは精神力動的な考え方に基づいていますが、受講者には精神分析的な知識があることを求めません。また、産業メンタルヘルス領域の臨床経験のない大学院生や若手の臨床家も含め、幅広い方々を対象に考えています。

対象：臨床心理士、精神科医、産業医、産業看護職、精神保健福祉士等

講師：白波瀬丈一郎、三浦有紀、松山公一、三宅琢、辻廣享子、三柴丈典他

産業メンタルヘルス領域で活動する人事担当者を予定。

開催期間：平成29年(2017年)5月～平成30年(2018年)3月まで月1回、全10回

5月～9月第4日曜日、10月～3月第2日曜日 8月休み 13:00～17:30

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：9名

企画者：白波瀬丈一郎

担当委員：白波瀬丈一郎

### (9) 精神分析志塾 (第2回)

目的：中堅臨床家の方たちが上級者に進展されるための協働を意図して、本志塾を昨年開講いたしました。限定されたメンバーによるクローズド・ワークショップの形態を取ります。精神分析や精神分析的な精神療法/心理療法での臨床力強化を図りながら、分析的な経験から濃く学び、創造力を高めることを目指しました。

対象：中堅臨床家

講 師：松木邦裕

開催期間：平成 29 年（2017 年）4 月～平成 30 年（2018 年）3 月 11 回

10：30～15：50

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：18 名

企 画 者：松木邦裕

担当委員：奥寺 崇

#### （10）「子どもの心の発達を学ぶ—基本および現代的視点—」（第 2 回）

目 的：昨年に引き続き、年間 3 回のセミナーを通して、乳幼児から思春期青年期の人たちの心の発達について、精神分析的な考え方や見方を学ぶこと、および、事例検討を通して子どもの心について理解を深めることを目指しました。

前半は先生方の講義、後半は臨床事例について講師、指定討論、参加者を交えてのディスカッションを行いました。

対 象：子どもとの臨床に取り組み始めた方たち、改めて基本から精神分析的なアプローチを学びたい中堅の方たち、現代の精神分析的な臨床に関心をお持ちの方たち。  
の方たち。

講 師：木部則雄、福本修、脇谷順子、生地新、深津千賀子、中村留貴子

開催日時：平成 29 年（2017 年）7 月 30 日（日）、9 月 23 日（祝・土）

平成 30 年（2018 年）1 月 8 日（祝・月）

13：00～17：00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：40 名

企 画 者：脇谷順子

担当委員：脇谷順子

#### （11）乳幼児観察セミナー（第 2 回）

目 的：本セミナーの前半では、乳幼児観察を英国で経験した講師が乳幼児観察に関する講義を行ってもらい、後半には 2 年間の乳幼児観察を終了した人から生き生きとした乳幼児観察の体験を語ってもらいました。

対 象：乳幼児観察の終了者、乳幼児観察に関心を持つ人であれば、職種は問いません。

講 師：木部則雄・鈴木龍・脇谷順子・鵜飼奈津子・平井正三

開催日時：平成 29 年（2017 年）9 月 17 日（日）、平成 30 年（2018 年）3 月 18 日（日）

13：00～17：00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：31 名

企 画 者：木部則雄

担当委員：木部則雄

## (12) 自我心理学臨床セミナー (2)

目 的：小此木啓吾をはじめ、精神分析の初期の先達に影響を及ぼした自我心理学の基本について再検討するためのセミナーです。アンナ・フロイトから現代の自我心理学者ポール・グレイやフレッド・ブッシュ、あるいはフォナギーらの仕事までの流れを確認するために、自我心理学の代表的な論文をひとつずつ読み、その後その治療者の業績を解説していく。また日本に治療構造論を導入したマスタークラスの臨床家とディスカッションをする、それぞれの自我心理学的な精神分析の考え方を確認していくというセミナーです。邦訳した論文の輪読は参加者が、文献の紹介とセラピストの解説は妙木が担当する。それぞれの臨床的な発想について参加者が対話する形で行いました。今期はハルトマンの共同研究者ローウェンシュタイン、シェーファー、ローワールド、そしてフェニヘルの4人です。

対 象：自我心理学に興味があり、臨床を行っている方（経験の多寡は問いません）

講 師：馬場禮子、深津千賀子、妙木浩之

司会・進行：妙木浩之

開催日時：平成29年（2017年）9月以降の第4日曜日 午前10時～12時 全6回  
(1月はお休み)

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：20名

企 画 者：妙木浩之

担当委員：岡野憲一郎

## (13) ビデオ録画セミナー ビデオ録画による初回面接（新規）

目 的：精神分析的な心理療法を目指す臨床家たちのために、ビデオによる訓練とその連想を広げる作業を実践するものです。シニアのセラピストの録画記録を使ってビデオに登場する患者役および治療者を講師として参加してもらってそれぞれの場面で考えたことをディスカッションしながら、妙木が連想を記録してそれについて解説しました。

対 象：ビデオによる訓練に興味があり、臨床を行っている方（経験の多寡は問いません）

講 師：妙木浩之、小林陵、飯島典子、野村真睦、山崎孝明、筒井順子、重宗祥子、  
坂本優子、熊谷秀樹

司 会：加茂聡子

解 説：妙木浩之

開催日時：7月31日、8月21日、10月16日、11月20日、12月18日、1月15日  
19:30～21:30

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：21名

企 画 者：妙木浩之

担当委員：岡野憲一郎

## 2. 単発セミナー

### (1) 精神分析—医学生・研修医セミナー（第10回）

目 的：臨床医をめざす医学生・研修医に、人間の心を深く見つめる精神分析の世界について、充実した内容をコンパクトに解説するものです。

開催日時：平成29年（2017年）7月16日（日）・17日（月・祝）

開催場所：小寺記念精神分析研究財団 セミナールーム

講 師：北山修・白波瀬丈一郎・高野 晶・藤山直樹・池田暁史・庄司剛

対 象：研修医、院生/医学部(5・6年生を優先)

参加人数：27名

内 容：レクチャーおよび分析家オフィス見学ツアー

企 画 者：池田暁史

担当委員：池田暁史

### (2) 関係性精神療法セミナー(第7回)

#### 「共感と解釈」

目 的：関係性精神療法について、毎年テーマを変えて講義する。

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方

開催日時：平成29年（2017年）7月23日（日）午前10時～午後3時

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方

発 表 者：富樫 公一（甲南大学）、吾妻 壮（神戸女学院大学）、岡野憲一郎（京都大学）

司 会：岡野憲一郎

参加人数：44名

企 画 者：岡野憲一郎

担当委員：岡野憲一郎

### (3) 『タヴィストックセミナー』（第8回）

#### 英国の児童青年精神保健制度における精神分析的な心理療法

#### 被虐待児への精神分析的アプローチ

目 的：本年は、英国の児童青年精神保健サービス（CAMHS）とそこでの精神分析的な心理療法の位置づけについて学び、さらにその現状を具体的な心理療法事例検討をもとに理解を深める機会としました。

開催日時：平成29年（2017年）12月23日（祝・土） 午後1時～5時

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方（臨床経験の多寡は問いません）

講 師：西村理晃（ロンドン医療センター）、平井正三（御池心理療法センター）

司 会：木部則雄・福本 修

討 論：小倉 清・平井正三

参加人数：64名

企 画 者：福本 修

担当委員：福本 修

#### (4) 学際的ワークショップ「精神分析の知のリンクにむけて」

##### —第2回『素人分析の問題』を巡って—

目 的：精神分析についての臨床的な知と人文知の交流をはかる学際的ワークショップの第二回では、フロイトの『素人分析の問題』というテキストを取り上げました。このテキストは、分析家になるための教育、分析家の資格認定、人文諸科学との関係など、今日読んでもアクチュアルな内容が盛り込まれています。そこで提示されている諸問題を巡って、哲学者の國分功一郎氏、医師の臨床家藤山直樹、非医師の臨床家平井正三氏で対話を展開しました。

開催日時：平成29年（2017年）10月1日（日）13：00～17：00

開催場所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

参加対象：精神分析に関心をもつ方はどなたでも参加できます。

発表者：國分功一郎、平井正三、藤山直樹

討 論：原 和之、十川幸司

司 会：藤山直樹、十川幸司

参加人数：66名

企画者：十川幸司・藤山直樹

担当委員：十川幸司

#### (5) 心理臨床家のための力動的精神病理学入門2

目 的：今年度は「妄想」とは何かについてのお話を、力動的精神医学の立場、精神薬理学の立場、力動的査定のための心理テストの視点から、そして力動フォーミュレーションの立場から考えました。精神分析的な立場からは鳥越先生をはじめとして、薬理学の視点から渡邊先生、心理テスト査定視点から吉村聡先生、それぞれの専門家が統合失調症、思考障害などの特徴である「妄想」という症状について考えました。

開催日時：2018年3月21日（祝・水）10：00～17：00

開催場所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

参加対象：臨床心理士・精神科医

講 師：妙木浩之・加茂聡子・鳥越淳一・渡邊衡一郎・吉村聡・重宗祥子

参加人数：66名

企画者：妙木浩之

担当委員：妙木浩之

#### (6) 海外講師によるセミナー

##### ①ドナ・オレンジ先生講演会

目 的：本セミナーでは、オレンジ先生に、間主観的アプローチが生み出されたコンテクストを紐解いていただきながら、間主観性の定義や「オーガナイジング・プリンシプル」、「持続的共感的な探索」といった基本概念について概略を論じていただきました。

開催日時：平成29年（2017年）11月23日（祝・木）10：00～16：00

開催場所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター



講 師：ドナ・オレンジ先生

指定討論：富樫公一

事例発表：森 さち子

司 会：福本修

通 訳：葛西真記子

参加対象：精神分析に関心があり、守秘義務を守れる方（臨床経験の多寡は問いません）

参加人数：71名

共 催：(社)日本精神分析的自己心理学協会

：サイコセラピープロセス研究所

企 画 者：福本修

担当委員：奥寺崇・福本修

## ②マイケル・パーソンズ先生講演会

目 的：臨床技法における英国独立学派の理論と臨床を学ぶ機会とする。

開催日時：平成29年（2017年）10月26日（木）19：00～21：00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団 セミナールーム

講 師：マイケル・パーソンズ先生

司会・通訳：木部則雄・奥寺 崇

参加対象：精神分析に関心があり、臨床実践を行っている方（臨床経験の多寡は問いません）

参加人数：22名

共 催：日本精神分析協会東京支部

企 画 者：福本修

担当委員：奥寺崇・福本修

## Ⅲ出版・広報事業

ホームページの充実、メールによる情報発信の準備

担 当：福本 修